

topics

「まちたんけん」で  
JA訪問

01

10月7日、相馬小学校2年生の児童4名がJA本所を訪れ、JAの仕事について理解を深めた。

児童らは金融・共済課や購買課で窓口業務を見学したほか、農業振興課においてリンゴの熟度調査も体験した。慣れない調査機器に苦戦しながらも鮮度や食味の重要性を学んでいた。

体験した石岡希理君は「身近なリンゴでも知らなかったことが多くあり、今回の見学で沢山勉強になりました」と感心を深めていた。



初めてリンゴの硬度を測る三上凛人君

topics

ライスセンター  
新設に向けて最終確認

02

10月8日、JA本所にてライスセンター新設工事に係る現場説明会が行われ、大場勉代表理事組合長を筆頭に工事関係者14名が出席した。

説明会では、設計図を基にJA全農とつほく設計センター職員から説明を受け、小型乾燥機の高さや配置場所などの細かい部分を確認した。

ライスセンターは11月下旬に取り壊しが行われる予定となっており、令和4年産米の刈取り時期までに完成を見込む。



図面などの資料を基に最終確認する関係者

topics

共済連職員が  
リンゴ作業を研修

03

10月12日から、当JA管内リンゴ園で全共済青森県本部職員におけるリンゴ栽培作業研修がはじまりました。これは毎年実施されており、受入農家が着色管理や収穫作業を指導。労働力不足が深刻化するなかで、援農としても一役を担っている。

今回研修に参加した共済連職員の工藤雅士さんは、「初めて葉取りや玉回しの作業をさせてもらい、とても大変な作業だと感じました。これからは、この苦勞を噛みしめてリンゴを食べたいと思います。」と感想を話してくれた。



葉取り作業を行う全共済職員

topics

農作業の大変さを感じ  
市長が激励

04

10月14日、坂市地区にある嶋口千速さんのリンゴ園で弘前市長現地督励が行われた。当日は櫻田宏市長が園地を訪れ、収穫を迎えた生産者に励ましの言葉を贈った。

この日は、シナノスイートの収穫作業が行われており、櫻田市長も高所作業台を使って収穫作業を体験した。櫻田市長は、「忙しい時こそ農作業事故や体調に注意し、最高のリンゴを収穫してください。」と声をかけていた。



高所作業台を使って収穫作業をする櫻田市長

topics

山内斉氏の功績永遠に

05



山内斉氏の弟子らが石碑を囲む

10月18日、湯口地区にある山内清和さんの園地前に、山内斉氏の功績を称える顕彰碑が建てられた。石碑には、これまで受賞した立木品評会「農林水産大臣賞」受賞や大日本農会「緑白綬有功章」などの受章が記されている。

この顕彰碑を建てる事を発案した紙漕沢地区の三上博幸さんは「この先も師匠を称え、初心を忘れないように我々弟子達で師匠から受け継いだ意志を継承していく。」と話していた。

topics

JAL空港地上係員も活動に参加

06



岩木山と赤く色付いたリンゴを背景に記念撮影

10月18日、日本航空(株)青森空港所の大石寛之署長をはじめとする地上係員計6名が当JA管内りんご園2カ所所で援農活動を行った。昨年からスタートした日本航空パイロットの有志らによる援農活動に奮起し、青森空港所としても一緒に取り組み、活動を盛り上げようという想いで実施。

葉摘み作業を行った大石所長は、「リン」が消費者の口に届くまで、こんなに大変なことを実感した。農家の方々の御苦労のおかげで美味しいリンゴが普通に食べられることに改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。」と話してくれた。

topics

世界に誇るふじ 収穫始まる

07



今年のふじは糖度が高く、食味も良好

10月18日から有袋ふじ、10月27日からサンふじの収穫が始まった。ふじの収穫を始めた紙漕沢地区の大場博文さんは、「ふじを収穫し始めるとリンゴ作業も本番な感じがして気合いが入る。今年は早く着色してくれたので安心して作業に励むことが出来ます。」と話していた。

王林やシナノゴールドなども最盛期を迎え、贈答に人気な飛馬ふじの収穫もスタートしている。

topics

JALのCAも収穫援農

08



収穫作業を手伝う青森県出身のふるさと応援隊

11月1日、桐の木沢地区の嶋口千速さんの園地において、JALふるさと応援隊青森県担当の4名と、日本航空(株)の安井勝一青森支店長はじめとする関係者4名がサンふじの収穫作業を手伝った。

青森県出身のCA2名は、「この時期に忙しい事が分かっていただけ、少しでも力になりたいと思って参加しました。他のCAも青森が大好きで参加してくれました。」と地元愛を語った。

10月4日、相馬小学校3年生の児童12名が山内大樹（五所地区）さんの園地を訪れ、袋剥ぎ作業と絵入りのリンゴをつくるためのシール貼りを行った。また、この日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から9月に行えなかった葉摘み作業の重要性についても説明を受けた。

袋剥ぎ作業についてはリンゴに傷を付けず、尚且つ落下させないように注意することを念頭に置きながら、児童は慎重に作業をしていた。シール貼りについては、児童が事前に絵描いたものを用いて作業にあたり、女性部や児童の保護者のサポートを受けて丁寧に貼っていた。丸いリンゴにシワ無くシールを貼ることは難しいものの、自分の描いた絵の中でも強調したいところは特にシワが寄らいようにするなど、ポイントをしっかりと押さえて作業していたのが印象的だった。作業を終えた児童は、「シール貼りは難しかったけど上手に貼れた。収穫するときに自分で描い

た絵が綺麗に浮き上がっているか凄く楽しみ。」と期待を寄せていた。

そのほか当日は、園主の山内大樹さんがリンゴの栽培管理に重要なスピードスプレーヤーや乗用草刈機、剪定鋏等を実際に見せて紹介した。児童は実際に乗用草刈り機等の運転席に座り、座り心地や視線を確かめて楽しんでいたら、これらの機械に対して使う頻度や値段等の質問を沢山挙げていた。

### オリジナルりんごの完成

10月26日、最後の授業である収穫作業を行った。

はじめに、米澤松太農業振興課主任から収穫の仕方が説明され、



乗用草刈り機に興味津々な児童

児童は前回貼り付けたシールを剥ぎ取り、収穫へ取り掛かった。シールを剥ぐと、児童は「描いた絵がリンゴに写っている」、「きれいに写せた」など嬉しそうな声をたくさん挙げていた。収穫時については、中々もぎ取れない児童もいたが、次第に慣れた手つきで収穫する様子が伺えた。

最後に、収穫した絵入りリンゴを並べてみると個性が際立つものが多く、世界に一つだけのリンゴが完成していた。

今年の「青空りんご教室」の先生を担当した米澤主任は、「約1年間を通してリンゴ栽培の中で楽しい事や苦労した事が分かったと思います。これからは、これらの気持ちを思い出しながら食べるともっと美味しいと思います。」と児童らへ伝えた。

相馬小学校では、毎年3年生が「青空りんご教室」と題して課外授業を行っている。当JAにおいては、リンゴの栽培方法や各種作業の大切さを伝え、今後も更により楽しい授業が実現できるよう努力して参ります。



世界に一つしかない自慢のリンゴを持って記念撮影



絵が写っているかドキドキしながらシールを剥ぐ児童